

【議事】 推3

準天頂高精度測位実験の事前評価について

文科省 事務局参事官付の水藤補佐が、資料 3-3-1（事前評価実施要領（案））を説明し、JAXA の堀川康 宇宙利用推進本部長と吉富進 測位衛星システム室長が資料 3-3-2（三部構成）を説明した後、下記のような質疑応答が行われた。

澤岡：当初の計画が変更になり、JAXA の仕事が増えた中で、本当にこの計画が推進できるのか。

堀川：JAXA はミッション機器を担当しており、当初から衛星とのインターフェースを意識して取り組んでいた。作業として残っているものはあるが、やることは理解できている。時間が必要なので遅れているが、当初予定を確保したいと思って取り組んでいる。

鈴木：1 基体制の中で、自動車の自動運転はできるのか。また、どのような仕組みで自動運転を可能にするのか。

吉富：国交相が作る補正情報を受け、衛星を経由してリアルタイムで送信する。

青江：補正情報は降ろすまでが JAXA の担当分なのか。

国交省：実際にどのように利用するかは民間が検討していることであり、我々はその技術を開発する。

井口：15 年評価のときの大きな問題は体制であった。それが今度のははっきりした。誰がというところまで早く追い込んでもらいたい。また、次のページ（5.1 各機関の役割）だが、このような縦割りで良いんですか。インテグレートはしないんですか。

堀川：JAXA が衛星の開発を担当する。それぞれの実験はそれ

ぞれが行う。

井口：誰が責任者か言ってくれば良いんですよ。

吉富：JAXA がシステム開発を取りまとめます。

井口：それなら JAXA が責任者だと言えば良い。

堀川：（説明を繰り返すものの、受け止めてもらえない）

井口：文科省がとりまとめと書いてあるが、予算が取れなかったら誰がどうするのかははっきりしていない。

奈良：推進協議会が作られており、4 省庁の調整を行っている。予算の要求は各省庁が行うが、調整を仕切る取りまとめは文科省が行う。

井口：文科省といっても広い。

奈良：研究開発局です。

井口：それならそう書けば良い。

青江：例えば、質の悪い信号を貰ってそれを送った場合、良い結果は得られない。質が悪ければ受け取らないのが責任である。

住：技術的難易度について少し示していただくと評価がしやすくなる。如何か。

国交省：国交省は「補強」をやっている。有識者を集めて評価を頂いているが、達成可能な目標であるとの評価である。

青江：経産省は（時計）相乗りであって、別の物に載せてもかまわないのか。

堀川：基本的には別の衛星であっても試験はできる。

高柳：（評価したくても何処までが評価範囲か解りにくいというような趣旨の質問）

森尾：今のような議論は内閣府の中で議論した上で無いと進ま

ないのではないか。どういう条件を整えば2号機がスタートするのか、これも内閣府での議論が必要であろう。

奈良：内閣府の「測位・地理情報システム等推進会議」で調整することになっている。

青江：切り方の問題であるが、何処にすれば評価ができるのであろうか。

高柳：ジグソーパズルをやっていたらある日崩されてしまい、改めて組み立てなおしている感じである。条件が少々変わっており、後になって何を評価したのかといわれる心配がある。

青江：変わったとは云えさほど大きくは無いという気がする。90%くらいは内側にある。

吉富：第2分冊の6.5 地上系システムの構成の図で、黒い線で示しているものがインターフェースである。それぞれ「インターフェース管理」の合意文書を交わしている。

青江：この図ではインテグレータがわからない。

吉富：とりまとめをやるのであるから責任者である。

鈴木：例えば「国交省さんがこういうことをやっている」と云うのは結構なことであるが、どう評価するのかとなると...

小林：(メモできなかつた)

廣澤：「補強」と「補完」があつて、「補完」は解るが「補強」はややこしい。ただ、「補強」が乗ることで価値が大きくなる。

堀川：(説明をするものの届いていない様子)

鈴木：両方含めた評価が望ましい。

松尾：国交省の評価が出されていることを受けて評価すれば良いのではないか。

廣田：間違いは無いと思うが100%とは云えないわけで、そこが苦しいところ。ともかく大きな間違いは無いと思う。

高柳：バスにはいろんな良い物が載っているのに、バスだけを評価しなさいと言われていたようで、逆説的に言っているのが私のしてきた質問であつた。

青江：評価表を作るには情報が不十分でしょうか。

水藤：事務局から提案ですが、今週中に質問を受け、7月下旬に次回を開催して補足説明をしてもらうのでは如何でしょうか。

澤岡：この話は素人が何度聞いても同じ。正直なところこれ以上勉強したくない。

小林：JAXAの範囲が一つの問題である。JAXAが将来何かを打ち上げようというとき、毎回このようなことになつたのでは耐えられない。

(今週中に特別委員からの追加質問を貰い、その内容を見て部会の追加開催の要否を判断することになった。)

地上系のシステムがかなり大きなもので、全体システムの成果に大きな影響を与えるのではなからうか。そのために最終成果に関してJAXAが明快な回答を出せない。しかし、衛星搭載機器と地上システムのインターフェースは単純なようだし、衛星搭載機器間のインターフェースはJAXAが容易に管理できそうだし、特別な問題は無さそうである。ここでは、「準天頂軌道利用実験」の価値を評価すれば良いのではないか。